

カキ礁の価値と保全の必要性 (1) — 分布と現状 —

小谷祐一

1. カキ礁とは?

皆さんは「カキ礁」をご存じでしょうか。漁業関係者であっても、「耳にしたことがある」という方はいらっしゃるでしょうが、「実際に見たことがある」または「良く知っている」という方は少ないと思われる。読んで字のごとく、カキ礁とはマガキやスミノエガキなどが積み重なって発達した礁であり、カキの群生地のことです。しかし、なかなか目にすることがないのは、カキ礁が河口域の泥干潟や内湾の海底に存在することが多く、容易に近づけないことと共に、サンゴ礁のように映像で紹介されることがほとんどないからだと思います。そこで、皆様にカキ礁の実態や役割などについて知っていただき、さらにその価値と保全の必要性を認識していただくため、シリーズでカキ礁について解説することになりました。どうかよろしくお付き合い下さい。それでは、本稿ではカキ礁の分布と現状についてご紹介します。

2. 日本沿岸におけるカキ礁の分布

国内におけるカキ礁の所在地は14カ所で、そ

のうち北海道のサロマ湖と厚岸湖の2カ所はすでに消滅しており、現存するカキ礁は12カ所であるとの報告があります(図1)¹⁾。また、3m以上の長辺を有することなどでカキ礁を定義して、日本におけるカキ礁の分布についての全国的なアンケート調査が2006年に行われ、カキ礁マッ



図1 国内におけるカキ礁所在地。高島麗(2007)会報『自然保護』No.496より。

プが作成されました²⁾。その結果、14ヵ所の河口域・海域に確実にカキ礁が存在することが明らかになりました。しかし、詳細な情報が得られておらず、正確な地点数は把握できなかったとも記述されています。

これらの他にも、北は北海道のサロマ湖から南は沖縄本島の塩屋湾まで、カキ礁の分布を確認したとの報告があります³⁾。それによると、サロマ湖と厚岸湖のカキ礁は昭和初期～中期に衰退しほぼ消滅しているが、東京湾、瀬戸内海、博多湾、有明海と不知火海には、長辺10mを越えるカキ礁が複数現存しているとのこと。これらの他にも、福島県相馬市松川浦では、マガキを構成種とする小型のカキ礁が多数点在していたことが確認されています。また、宮崎県と鹿児島県では岩礁域に近接する干潟に小規模なカキ礁が、さらに沖縄本島北部の塩屋湾ではミナマガキのカキ礁が確認されたとのこと。

3. カキ礁の利用と現状

カキ礁はいわば「天然のカキ畑」であり、古来、特に干潟のカキ礁のカキは身近な食料として利用されてきたと考えられます。しかし、漁業の対象として近年までカキ礁が利用されてきたのはサロマ湖や厚岸湖、有明海のみで、おそらくその他の海域での事例はないのではないのでしょうか。そのサロマ湖や厚岸湖のカキ礁は、前述したように、乱獲などによってほぼ消滅したとされていました。しかし、近年、道東の厚岸湾から厚岸湖付近で音波探査が実施され、厚岸湖内の湖口付近に形成されたカキ島周辺の複数の地点で、カキ礁と考えられる特徴的な海底地形が確認されています⁴⁾。なお、有明海奥部には「カキ床(かきどこ)」と呼ばれ、その一部が現在も漁業に利用されている大規模なカキ礁が多数存在しますが(写真1)、その現状や課題などについては、近年の調査結果も含めて後の稿で詳細に説明します。



写真1 佐賀県鹿島市沖に広がるカキ礁。干潮時に浮かび上がるように出現する。海側からの撮影なので、奥側に鹿島市の市街地と多良岳が霞んで見える。
<http://snf.fra.affrc.go.jp/kenkyutopics/kaikubu/kaikubu01.html>より。

さて、東北の沿岸には前出の松川浦の他に、宮城県の方石浦や仙台湾などにも小規模なカキ礁が存在していましたが、東日本大震災によってこれらはどうなったのでしょうか。最近の調査で、津波によって消失したカキ礁が徐々に回復しつつあることが確認されています⁵⁾。この他にも、近年、新たに発見された珍しいカキ礁の話があります。第十管区海上保安本部は、平成21年2月に八代海の水深約30mの平坦な海底で、直径約50m、高さ約5mのほぼ円形の海丘、約80個が密集する極めて珍しい地形を発見しました⁶⁾。これらの海丘はカキの仲間であるカキツバタで構成されていることはわかりましたが、この海底地

形がどのように形成されたかは現在もわかっていません。

4. カキ礁をもっと調べよう!

前述したように、北海道から沖縄までの日本各地にカキ礁が存在しており、未確認情報も含めると、現在、日本には30ヵ所以上のカキ礁があるものと推定されます。なかでも三番瀬の猫実川河口には、最大で幅約48m、長さ約120mもの大きなカキ礁が存在しています。このようなカキ礁は、長い年月をかけて形成された貴重なものであり、水質浄化と多様な生物を育むという重要な役割を担っているとの考えのもと、三番瀬

では市民団体や大学などによる調査や保全活動が行われています(写真2)。



写真2 三番瀬市民調査の会による猫実川河口域でのカキ礁の調査。マガキがタワー状に積み重なっている。
<http://www006.upp.so-net.ne.jp/junc/koryu009.html>より。

一方、三番瀬や有明海奥部を除いて、カキ礁の多くは調査が十分に行われていません。また、干潟や藻場と同様にカキ礁もまた沿岸域の埋め立てなどにより大きく減少したと推測されますが、その実態は不明であることから、その分布や現状を把握するための全国規模の詳細な調査が望まれます。加えて、カキ礁の価値が十分に認識されているとは言い難いことから、第一にカキ礁が干潟や内湾の構成要素の一つであり、その海域における水質浄化や生物多様性、漁業生産などにも重要な役割を果たしていることを皆様に知っていただく必要があると思われます。そのうえでカキ礁の価値と保全の必要性を認識していただくことが重要です。そこで、次

回はカキ礁が有する機能と役割についてご説明することになります。

5. 引用文献

- 1) 高島麗 (2007) シリーズ新・生命の輪・6「多様な生きものを支えるカキ礁が織りなす生態系」. 会報『自然保護』, 2007年3/4月号 (No. 496), 40-42.
- 2) 青山 一・佐野郷美・高藤淳一・田原悦子・山下博由 (2007) カキ礁アンケート調査の実施とカキ礁マップの作成. 「日米カキ礁シンポジウム - 今、カキ礁が注目されています -」講演要旨集, 36-38.
- 3) 山下博由 (2007) カキ礁と泥干潟生態系の価値. 「日米カキ礁シンポジウム - 今、カキ礁が注目されています -」講演要旨集, 41-43.
- 4) 内田康人・嵯峨山 積・重野聖之・七山 太・安藤寿男 (2012) 音波探査で見いだされた厚岸湾・厚岸湖 (北海道東部) の潮汐三角州の内部構造と埋没カキ礁の分布. 地球惑星科学連合2012年度連合大会, HQR22-P01.
- 5) 環境省自然環境局生物多様性センター (2016) 平成27年度東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査 調査報告書, 平成28年3月, pp. 204.
- 6) 伊藤弘志・和志武尚弥・那須義訓 (2010) 技報「八代海南部の海底で発見された海丘群の潜水調査報告」. 海洋情報部研究報告, 第46号, 96-102.